

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限	
障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ（就労支援サービスを含む） Support for the Challenged Person and Support Sytem for Independence of the Challenged PersonⅡ (including supporting services for employment)		1年	後期	別途、時間割参照	
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限	
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)	特になし	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目					
社会福祉士受験資格指定科目					
同時に履修しておくことが望まれる科目					
社会福祉士受験資格指定科目					
担当者に関する情報					
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
新井文子		福祉棟2階	初回授業にて説明する。	授業中に指示します	
授業の概要					
前期Ⅰの内容をもとに、日常生活と就労に関わる支援制度および関係法規について学ぶ。これらの学びを通して、障害者の自立生活に必要な社会資源について理解を深める。					
授業の目標					
①障害者総合支援法について説明できるようにする。 ②障害者の就労支援について、必要な制度を列挙できるようにする。 ③事例や講話を通して、就労支援サービスとつなげられるようにする。					
授業の方法					
講義形式であるが、個人またはグループワークも取り入れる。					
学習の成果（学習成果）					
障害者総合支援法を中心に、就労支援に係る諸制度を理解し、各障害に適した就労支援を考えることができる。					
授業のスケジュールと内容					
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって）、前期2回の小テストをもとに復習				
第2回目	障害者総合支援法① 個人またはグループワーク（課題は別途説明）				
第3回目	障害者総合支援法② 個人またはグループワーク				
第4回目	障害者総合支援法③ 個人またはグループワーク（レポート1 提出：第5回目 発表終了後）				
第5回目	障害者総合支援法④ 発表、まとめ				
第6回目	障害者総合支援法⑤ 他職種連携、ネットワーキングと実際 小テスト①（筆記試験形式）				

第7回目	相談支援事業所の役割と実際	
第8回目	障害者の雇用・就労の動向、障害者の雇用に促進等に関する法律および関連法規	
第9回目	低所得者と就労支援	
第10回目	障害者と就労支援① 就労支援制度	
第11回目	障害者と就労支援② 組織・団体・専門職の役割	
第12回目	障害者と就労支援③ 民間の取り組み	
第13回目	障害者と就労支援④ 事例紹介 小テスト②（筆記試験形式）	
第14回目	障害者の就労施設関係者の講話または視聴覚教材 （レポート2 提出：第15回目）	
第15回目	2回の小テストおよびレポート1をもとにしたまとめ	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	テキストや配布資料等を持参し、自主的にメモしている。個人またはグループワークに積極的に取り組んでいる。
レポート	20%	1：障害者総合支援法についてまとめる。S：他者にもわかるようにまとめている。 2：講話または視聴後の学びのレポート。S：感想文にとどまらず学びを明確に記述している。（各10%）
調査報告書		
小テスト	60%	2回実施 ①第2回～第6回までの知識の確認 ②第7回～第12回までの知識の確認（各30%）社会福祉士国家試験に準じた選択式である。持ち込みを不可とする。
試験		
発表内容（態度含む）	10%	発表原稿を作成し、発表の練習をしている。
その他		
教科書と参考図書		
教科書 （前期Ⅰと同じ） ①新・社会福祉士養成講座14 第5版 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」中央法規出版 ②新・社会福祉士養成講座18 第3版 「就労支援サービス」中央法規出版		
履修上の留意点・ルール		
新聞記事やニュース等から障害に関する情報を得るようにして、専門用語の理解に努めてほしい。		